

Book Review

高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル

内藤 徹・秋竹 純・牧野路子・水谷慎介 著



Reviewer

山本浩正 Hiromasa Yamamoto
(大阪府・山本歯科, PEC 主宰)

B5判, 96頁
定価(本体 3,000円+税)
医歯薬出版刊行



母と義母と一緒に旅行をしたことがある。息子が大学に入学したので、その地を案内するためだった。そのころ、義母は股関節の具合が悪くなっていて、とても歩ける状態ではなかったため、車いすを借りることにした。私が押す担当になることで、あまり話をしたことがなかった義母と何気ない会話をすることができた。ただ、耳も遠くなってきている義母は、後ろから話しかけられても聞こえづらいということにすぐ気づいた。そして、そもそも年上の人に対して、私が“後ろ”から“頭ごし”に話をすることの違和感は強かったため、横に立ってみたり、しゃがんで顔を近づけたりして話をするようにした。小さな義母なのに、車いすは坂道などになると案外重い。レンタカーで移動したので、車の乗り降りや、車いすへの移乗など初めての経験の連続であった。

駅や空港での温かいサービスに喜んだり、レストランでの心ない対応に悲しんだり、車いす生活の人やその介

助者が日々経験していることの“ほんの一部”だけなのに、精神的に揺れることが多かった。車いすの患者さんを見るたびに、そのときのことを思い出している。

このたび、医歯薬出版から『高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル』が上梓された。10年来の“内藤ファン”の私を買わないはずがない。さっそく購入し拝読すると、これは単なるスキルの本ではないことがわかった。写真を多用しているが、一見ノウハウ本のように仕上がっているが、ハンディキャップのある患者さんへの“愛”と、われわれ歯科医療従事者が正すべき“襟”に満ちている。もちろん第3章の要介護高齢者への対応などでは、ちょっとしたボディメカニクスの解説に膝を叩く内容ばかりである(読後、きっと膝が痛くなってしまいますのでご用心ください)。

実は内藤 徹先生は2017年1月にエビデンスに関する本を上梓されている(知ってて得した! 歯周治療に活

かせるエビデンス/クインテッセンス)。1年の間にエビデンス本と臨床本を上梓するという離れ業に、内藤先生が長年積み重ねてこられた蓄積を後輩に伝えたいという熱い想いを感じる。しかも本書は一冊3,000円という驚きの価格設定だ! 一人でも多くの歯科医療従事者に読んでもらいたいというメッセージに頭が下がる想いである。

“はじめの一步”を拝読した“内藤ファン”としては、当然のことながら、,, “次の一步”を待ちにしている。

What's next? When's next? ファン心理をくすぐる“内藤マジック”に今回もやられてしまった。

追伸 タイトルの長い本書は“はじめの一步”というニックネームにしましょう。注文するときには『“はじめの一步”ください』という感じです。『“はじめの一步”読みました』と内藤先生に言う人が増えることが、“次の一步”のモチベーションにつながる、,, 私の作戦大成功です。